

[評者]
名郷直樹
武蔵国分寺公園クリニック
院長



Dr. KID の 小児診療×抗菌薬のエビデンス

宮入 烈 監修
大久保祐輔 執筆
宇田和宏 執筆協力

●A5 頁 256 2020年4月
定価：本体 3,500 円＋税
[ISBN978-4-260-04164-5]医学書院刊

私は 10 年ほど前から Twitter を利用している。そのなかで小児のコモンディーズに関して最も役に立つ情報を提供してくれていたのが Dr. KID である。私のクリニックの外來の 3 割は小児であるが、Dr. KID のつぶやきなしに診療できないといってもいいほど、その情報は日々の診療にダイレクトに役立つものであった。

臨床研究やそのシステマティックレビュー論文を網羅的に紹介し、臨床医のために情報提供をするというスタンスは、私自身がここ 20 年以上取り組んできた仕事の 1 つであるが、それを日々のつぶやきとブログの積み重ねのなかで軽々とやっつけてのける Dr. KID の登場は感慨深いものがあった。

そんな感慨にふけりながら、Dr. KID とはいかなる医者なのだろう、どのような経歴の持ち主なのだろうと想像をたくましくしていたら、なんと後期研修中に私のクリニックで 2 週間研修をしていた大久保祐輔先生がその人だということではないか。びっくりである。さらには私に書評を書いてくれという。彼が研修したのは、私の意識ではほんの少し前の出来事というところだが、そのわずかな時間に、彼は Dr. KID へと進化を遂げていたのである。

時の流れというのが個々人に固有のものであることを思い知らされる。日々退化するばかりの私と、数年のうちに本書のような、小児に抗菌薬を使用する臨床医にとって最も切実な問題を取り扱った教科書を出版するまでになった彼の時間との流れの違いにあぜんとするのかなんとか……。とてつもない医学書の書き手の登場である。

本書は、その Dr. KID の小児診療に関する抗菌薬についてのつぶやきとブログを基にした一冊である。内容について多くは触れずにおこう。それこそ何年かからなければ網羅できないデータ、論文の数々がこの一冊に凝縮されている。さらにその解釈に関する重要な統計学的事項がわかりやすく説明されている。類書はない。

「風邪に抗菌薬」というような診療が一刻も早く過去のものとなるよう、本書の普及が望まれる。小児科医に限らず、すべての医師、さらには薬剤師にとっても必須の書である。お薦めするというレベルではない。臨床に携わる以上、読まなければならない書といってよい。まずは私のクリニックの医師の必読書としたい。この本の著者は、ここのクリニックで 2 週間研修をしていたんだよという自慢とともに。